心の理解も、進学も。
「Michibikiゼミ」

株式会社Hazama
事業説明資料

2026.11作成

会社概要



会社名：株式会社Hazama

代表者名：遠矢勇輝

所在地：〒155-0033 東京都世田谷区代田2-36-15 BONUS TRACK中央棟テナント4

設立年月：2026年7月24日

事業内容：

①教育支援事業・学習支援事業

②発達特性に応じた個別支援・監修・研修・補助支援員派遣業

※発達障害グレーゾーン児童生徒の学習特性・指導・進路データを蓄積し、どの地域の学校・塾・自治体でも個別支援を設計できるエコシステムを構築するインパクトスタートアップです。

代表紹介

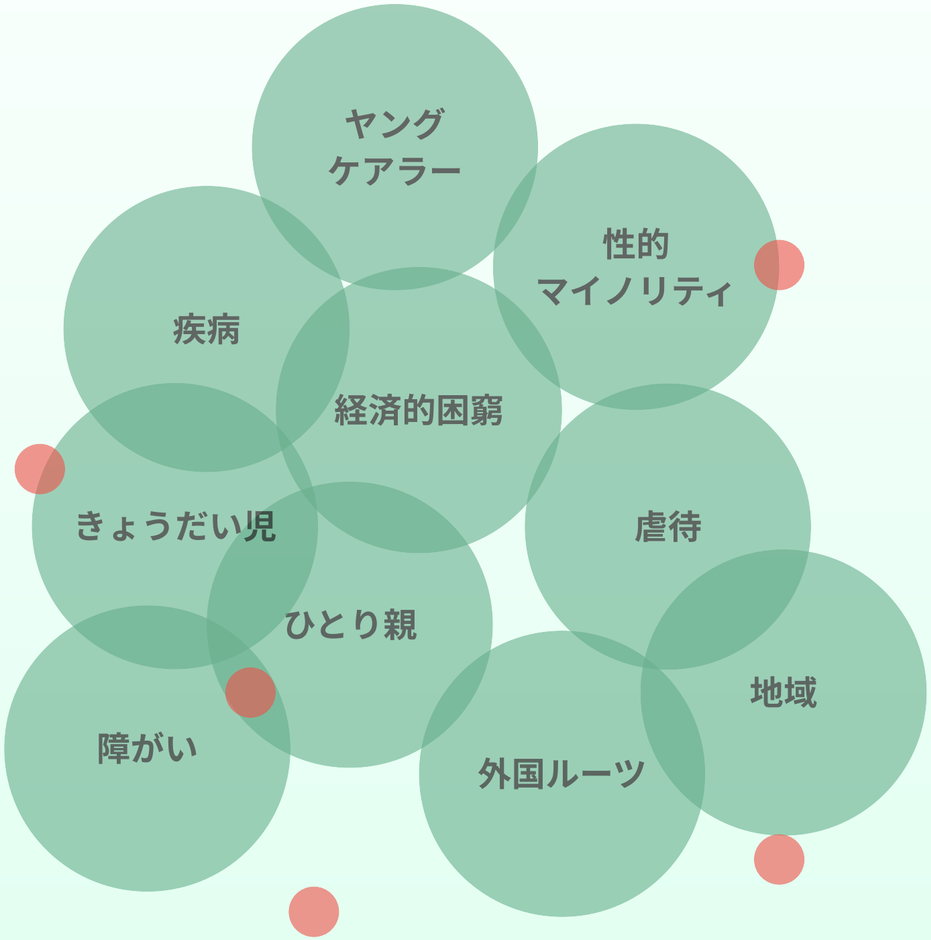


株式会社Hazama　代表取締役社長

遠矢 勇輝 ／ YUKI TOYA

軽度発達障害（自閉スペクトラム症：ASD）を抱える1つ下の妹の影響で、特性を理解されづらい「グレーゾーン」ならではの生きづらさ、支援体制の不十分な教育現場に問題意識を持つ。2020年4月に早稲田大学法学部入学後、社会保障法や教育格差問題に対する政策立案（学生団体GEIL）を通して教育・福祉の社会構造やそれに伴う社会問題を学ぶ。同時に、幼児教室・学習塾・発達支援教室や相対的貧困支援のNPO、地域の子ども食堂等の現場活動を行う。大学卒業後コンサルティング会社に新卒入社するも3ヶ月で退職。2025年5月に発達障害グレーゾーンの小中学生を対象とした学習塾「Michibikiゼミ」を開業。翌年2026年7月に「株式会社Hazama」を設立。

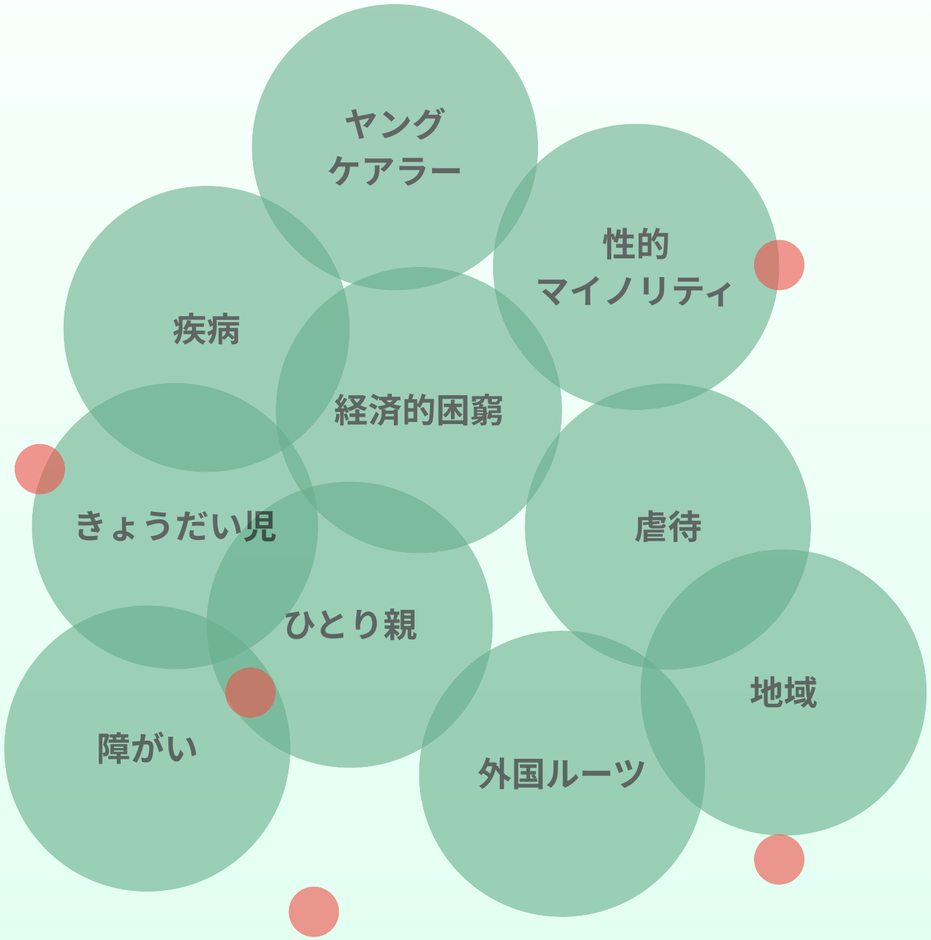
私たちが介入する対象



“はざま”とは、何か。

私たちは何かの事象を括り、ラベリングすることによってはじめて「課題」であると認識し、その課題に対し様々なステイクホルダーが対策を施し、社会課題は徐々に改善の方向へ進んできました。しかし、このようにラベリングしていくと、どうしてもラベルの境界線・重なり・隙間が生まれてしまいます。Hazamaは、**まだ社会の中でラベリングされておらず、課題であると認識されていないラベルの境界線・重なり・隙間に焦点を当てる**ことに注力しています。私たちはその人々を「はざま（間）」と呼んでいます。

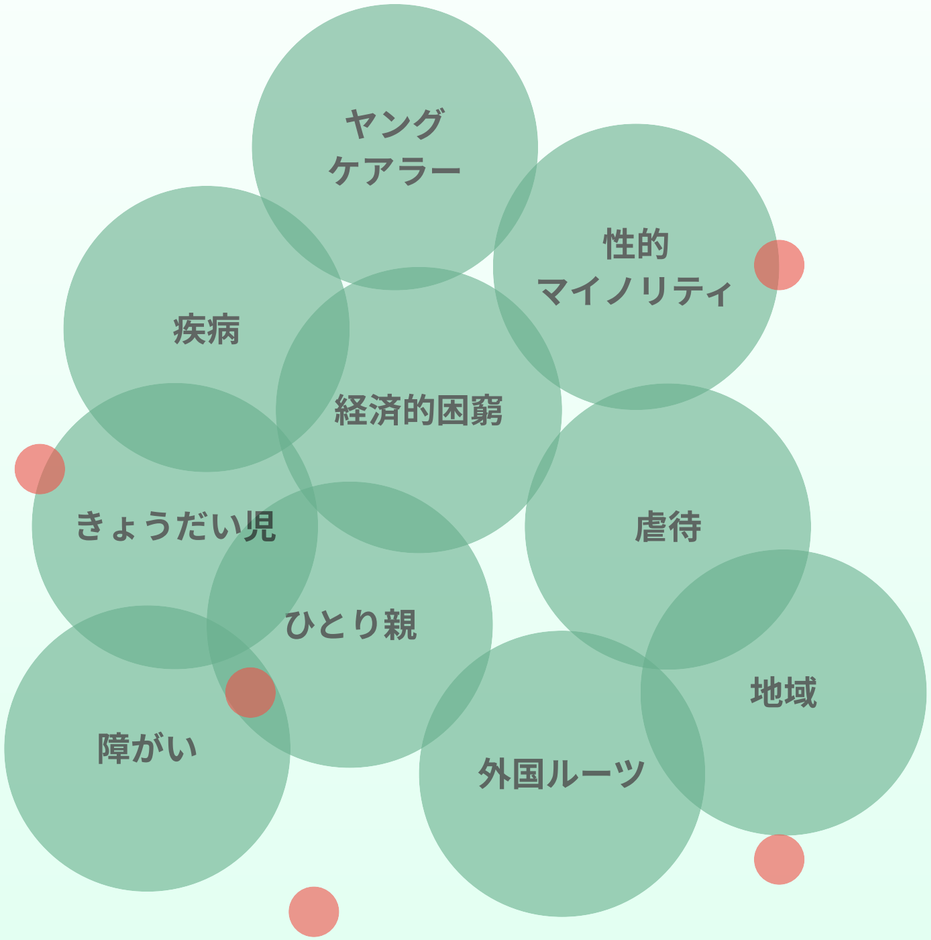
私たちの存在意義 -Mission-



“はざま”に、灯（ともしび）と言葉を。

私たちはつい目に見えやすい顕在化した課題に対して解決できないかを考えてしまいます。勿論その課題に対する解決もとても価値がありますが、「なんかモヤモヤする」「言語化しにくい」といったまだ課題として顕在化していないものこそが今まで解決されてこなかった課題であり、生き方の多様化が進む現代社会において、今だからこそ解くべき課題であると考えています。私たちは既存の課題と課題に埋もれる「はざま」を捉え、その人々に**灯を当て社会的認知を促し、そして社会に理解を促すための言葉（共通言語）をつくっていく役割**を果たします。

目指す世界 -Vision-



「尊厳」×「可能性」

私たちは、一人ひとりの尊厳（「私は私である」）を守ることを通じて、誰もが自分の可能性を最大限に発揮できる社会を目指しています。私たちが大切にするのは、幼い頃に描いた夢や何気ない日常に表れる、その人ならではの個性や願いを見つけること。そして社会が求める色に本人を染めるのではなく、一人ひとりが持つ固有の「色」を見つけ、その色が最も美しく輝く環境や関わり方を考え続けること。子どもから大人へ、学びから社会へとつながる過程にまで責任を持つ。「私は私である」を守り、「私だからこそできる」を社会につなぐ。それが、私たちの使命です。

私たちの行動指針 -Value- ① 声を拾う



あなただけの言葉を声に、そして社会に。

現場から教育インフラを整備する

「はざま」の子どもとその親は全国共通の教育・福祉政策・制度からこぼれ落ちてきた存在であり、十分なセーフティネットも無い状態の中、各家庭の創意工夫により何とか前に進んできました。しかしながら、その過程で生まれた「当事者の知恵」は評価も引き継ぎもされず埋もれてしまう現状にあります。私たちは**各家庭が抱えてきた課題や行なってきた創意工夫をモデル（型）化し、ローカル（現場）から「はざま」の教育インフラを整備する**ことで、個と社会を繋ぎ直し、尊厳・自由・自立の獲得に向けた教育を受ける権利を保障する役割を担います。

私たちの行動指針 -Value- ② 声を届ける

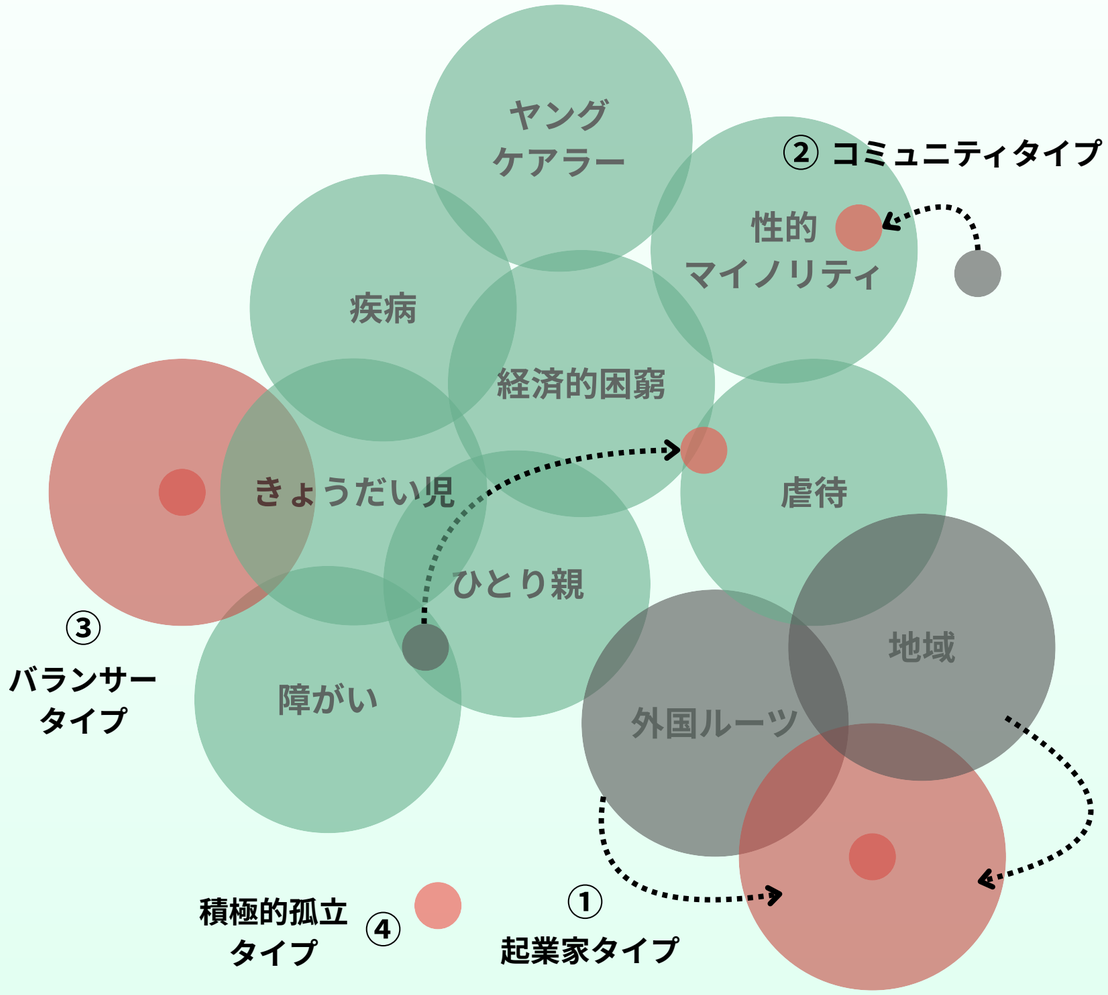


あなただけの言葉を声に、そして社会に。

発信する、翻訳する。

「はざま」の子どもとその親は、「どうせ理解されない」という心情から、他者に対し自分の気持ちをあまり開示しない＆自分や他者と向き合うこと自体を敬遠する人が多い傾向にあります。そのため、「はざま」の子どもとその親の気持ちは社会に反映せず、いつまでも埋もれたままになっています。私たちは**「はざま」という存在を社会に認知してもらうための「発信者」としての役割、そして、対社会に理解を促す言語化のサポートや他の教育機関・進路につなげる「翻訳者」としての役割**を果たすことで、Misson・Visionの実現に貢献します。

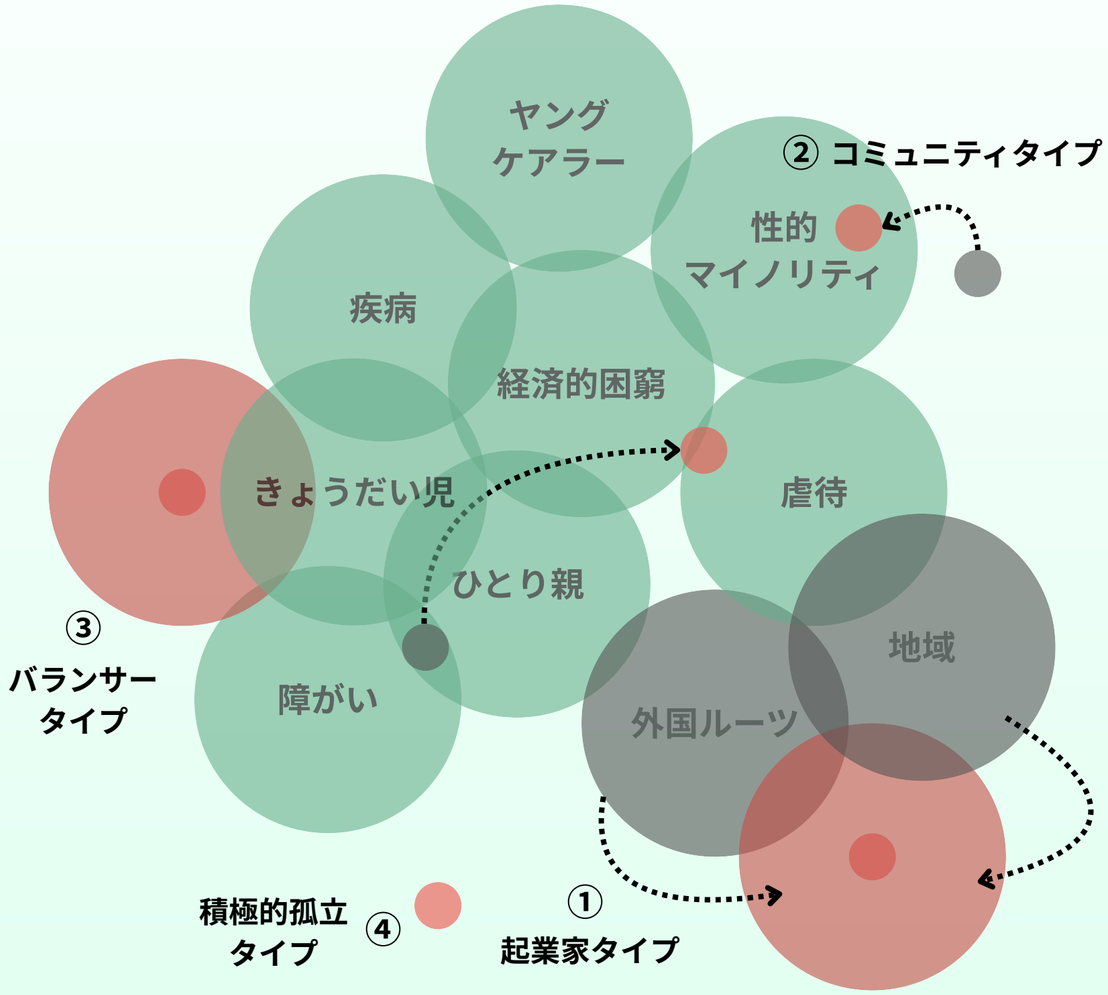
私たちの行動指針 -Value- ③ 声を導く



自立・自律のために、導く。

私たちは「はざま」が各々の尊厳を守りつつも、孤立することなく社会で生きていける状態を構築することを目指しています。そのためには、①自身でラベリングを行い他者を巻き込んだり、②自分から他の最適なラベルに移動したり、③自身の特性を言語化し相互理解を得たり、④多様なラベルを理解した上で自分はここに止まる選択をしたり、といった能動的思考と行動を育むことにより、自身の尊厳を守りつつ、自分の可能性を最大限発揮できると考えています。私たちのテーマは「尊厳×可能性」です。

私たちの行動指針 -Value- ③ 声を導く



自立・自律のために、導く。

私たちは「はざま」の子どもとその親に対し、「発信者」と「翻訳者」としての役割を果たすと同時に、将来的に私たちの発信や翻訳を必要とせずに、自ら自身のことを言語化して発信し、社会適応ができるようになるために、常に本人に合った教育を受けることができる機会の提供を目指します。可能性を発揮する主体者は「はざま」の子どもとその親であり、私たちはその可能性の導き役に過ぎません。

将来にわたって、あらゆる判断や決定を自ら行うことができるようにするための戦略・スキル・知識を提供し、自立・自律の土台作りに寄与します。

解決したい社会課題



発達障害グレーゾーン児童生徒の
学習環境不足と
それに伴う自立困難

代表遠矢の妹が発達障害グレーゾーン当事者であったことから、事業がスタートしました。

発達障害の「グレーゾーン」とは

ちょっと　空気を読む会話が苦手

ちょっと　じっとしていることが苦手

ちょっと　読み書き計算が苦手

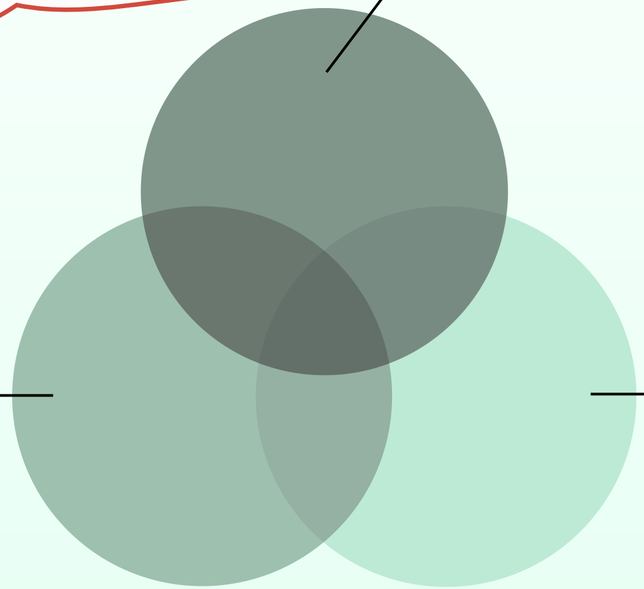
発達障害の「グレーゾーン」とは

通常学級に通う小中学生の8.8%
(35人学級で3〜4人)
が発達障害の可能性がある

=

全国の公立小中学校で
70万人超え

もしかして発達特性
があるかも？？



自閉スペクトラム症
（ASD）

コミュニケーションが苦手
対人関係・社会性の障害
こだわりの強さ

注意欠如多動性障害
（ADHD）

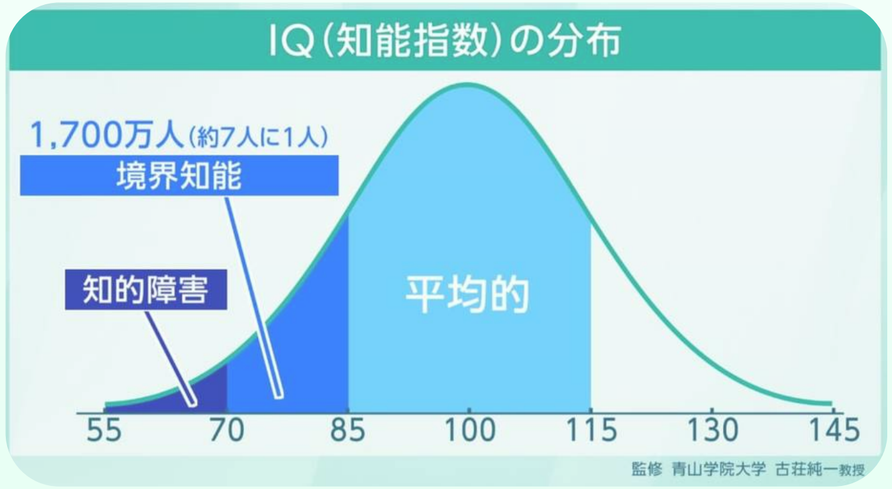
不注意・多動性・多弁性
衝動的な行動

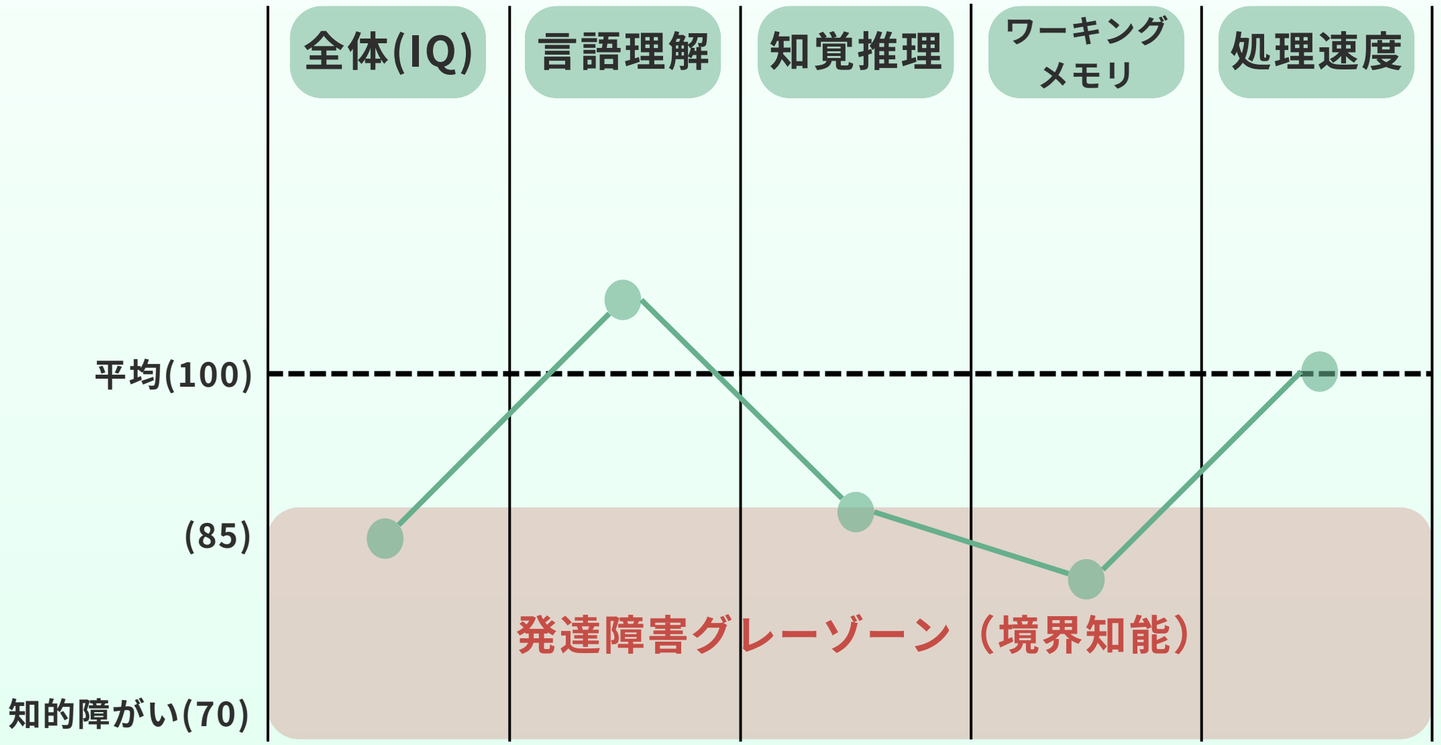
学習障害
（LD）

読み書き計算など
特定の学習に困難がある

文科省『通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について』より

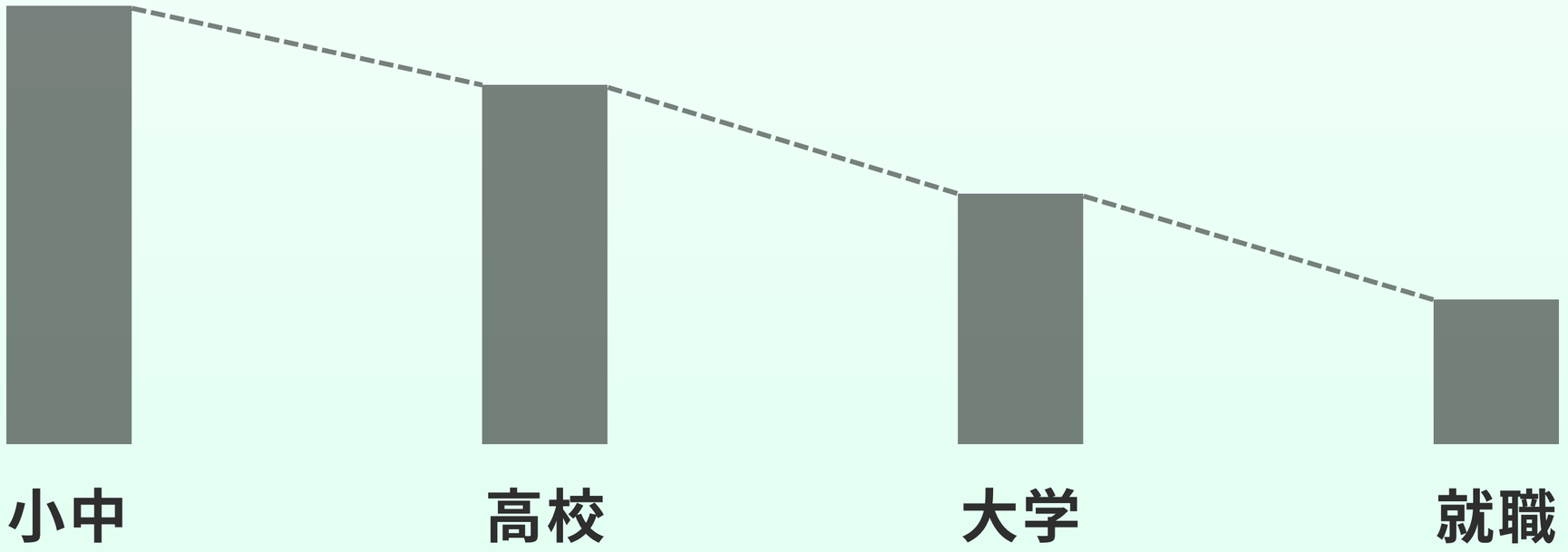
発達障害の「グレーゾーン」とは



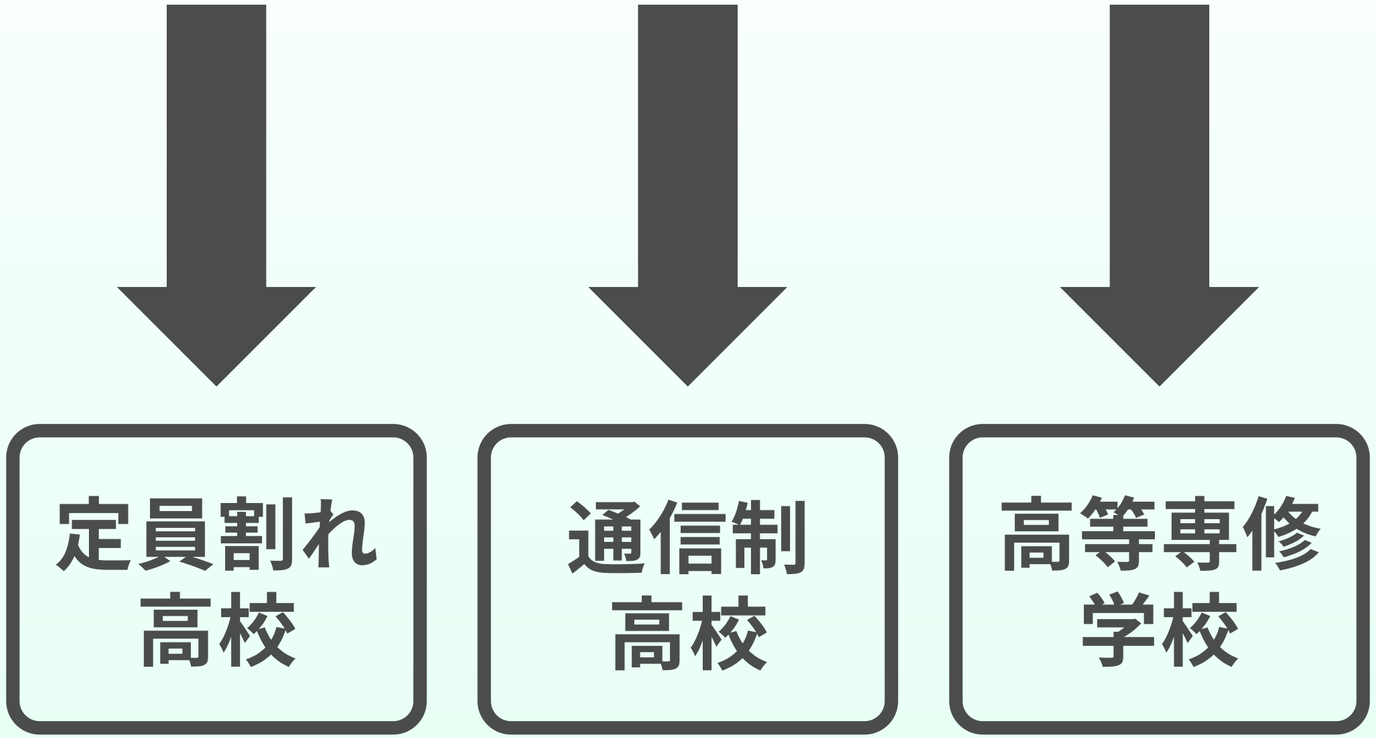


社会問題の現状

勉強頑張っているが...
学年を重ねるにつれて
可能性(進路の選択肢)が狭まっていく



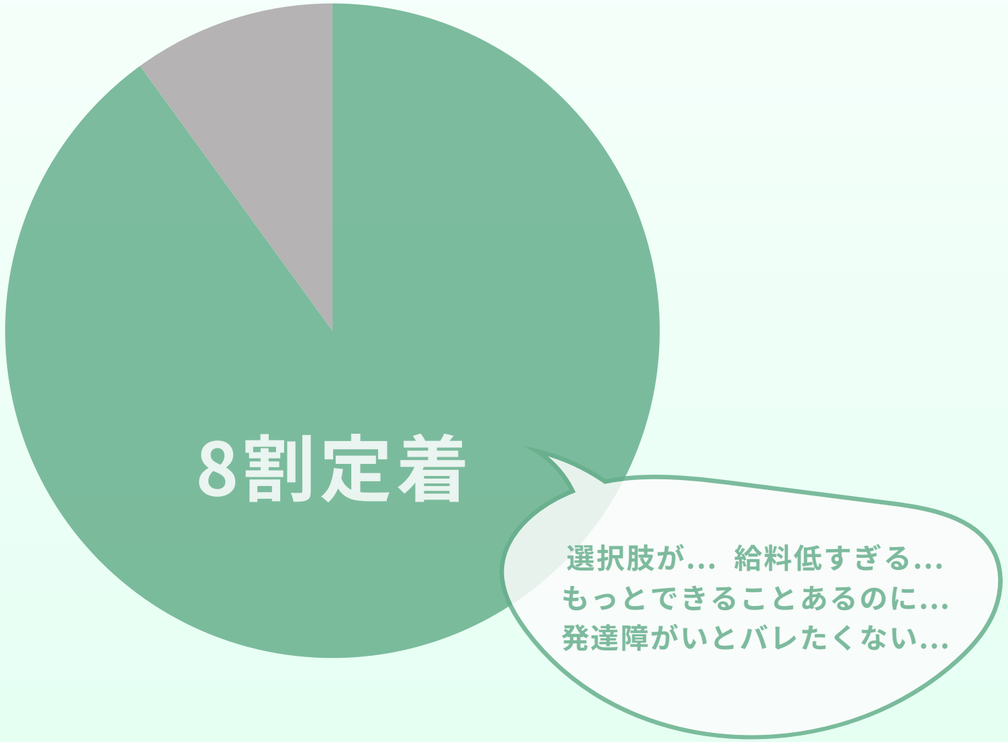
社会問題の現状



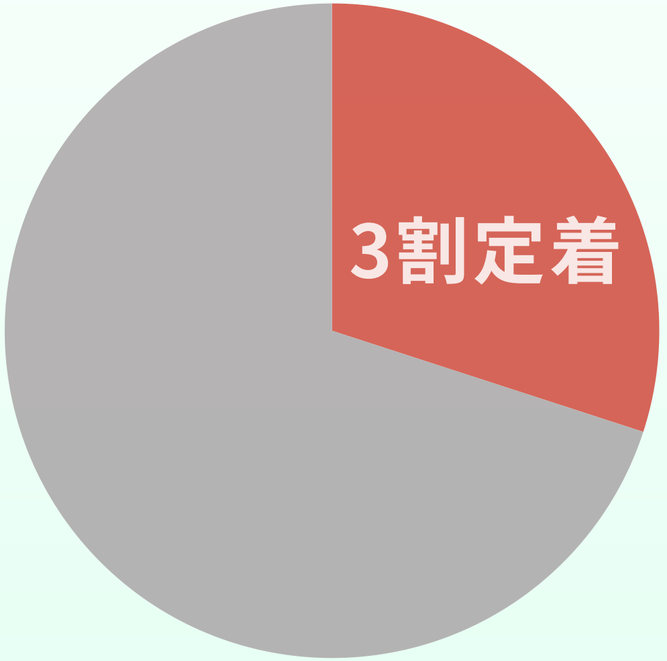
成績不良による高校進学先の限定化 & 就職準備に偏る

社会問題の現状（1年職場定着率）

障がい者雇用



一般雇用

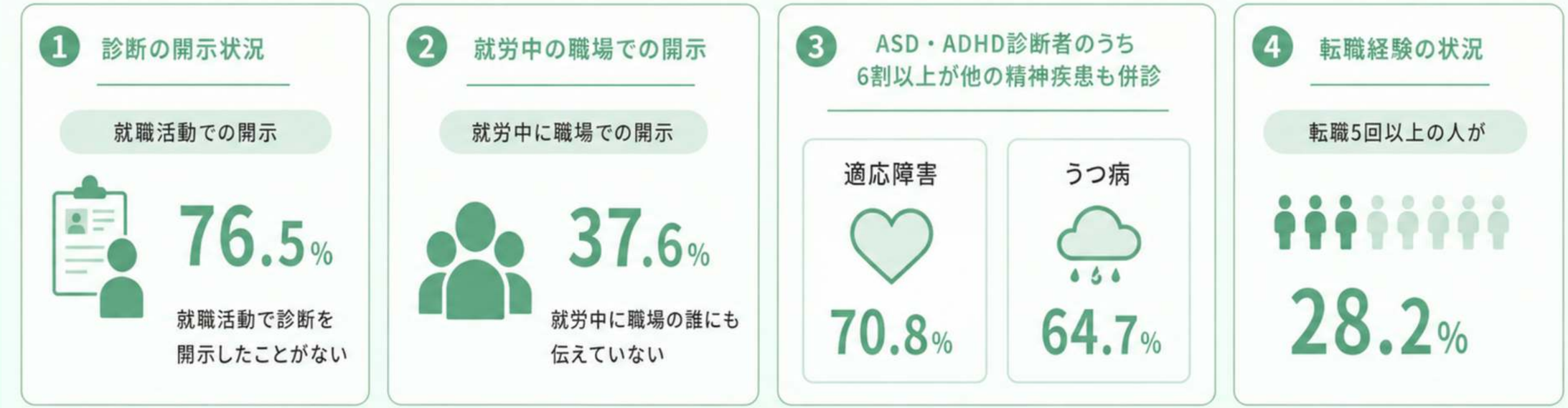


- 発達障がいグレーゾーンの人たちは発達障がいだということを開示しない「クローズ就労」を選ぶケースが半数以上。
- 就労移行支援事業所を利用している方で元一般雇用＋普通級だった人で4割ほど。

転職を繰り返したり、二次障がいによる長期離職・引きこもりにつながる

障害者雇用実態調査結果より

社会問題の現状（数値で見る就労状態）



診断の非開示や併診、転職の多さが就労上の困難を示している

日本財団「発達障害・精神疾患の診断を受けた人の就労に関する実態を調査」

課題の原因

学習支援（教育）

- 大手塾
- 個別指導塾
- 家庭教師

発達障害グレーゾーン
児童生徒に合う
教育環境がなかなか
見つからない



戦略なき迷子になり、
毎日の伴走に疲弊し、
将来の自立に不安を
抱え続けている



自立支援（福祉）

- りたりこ LITALICO ジュニア
- 運動療育
- 放デイ

課題の原因

一般雇用

発達障がいグレーゾーンの
人の就職先は、、？

転職を繰り返したり、二次障がいによる長期離職・引きこもりにつながる

就労継続支援A型・B型

課題の原因

発達障害グレーゾーン児童生徒の学習環境不足とそれに伴う自立困難

「情報選定前の困難性」

子どもの発達特性に合う情報（教育機関・教材・進路）を選定することが難しい

「情報の欠如」

自立支援（福祉）と学習支援（教育）の二極化により、既存の教育・福祉機関では発達障害グレーゾーン児童生徒の情報蓄積が殆ど無い

「ブラックボックス化」

今までグレーゾーンそのものの認知が少なかったため、既存の教育・福祉機関では情報を蓄積する価値がそもそも無かった。

「再現性の低さ」

発達特性は個別具体性がかなり高く、他の人の事例を参考にすることが難しいとされてきた。

「情報選定後の困難性」

選定した教育機関・教材・進路でどう適応し成長していくかを言語化して戦略立てることが難しい

「変数の多さ」

「勉強」と一概に言っても、学習環境・学習ツール・学習スタイルなど様々な要素（変数）があり、自分に合った勉強法を整理して言語化することが難しい

※健常児と比べ、情報の選定先や活用方法が、自らの成長に、より大きな影響を及ぼす。

課題の原因（公教育）

通常学級で発達障がいの可能性がある8.8%の子どもたちのうち、

問題①	校内委員会で特別な教育的支援が必要と判断28.7%
問題②	個別指導計画の作成や個別の配慮・支援30%以下
問題③	授業時間内配慮（座席位置・会話・習熟度）約50%

文科省『通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について』より

心の理解も、進学も。
MICHIBIKI

学習支援

- 大手塾
- 個別指導塾
- 家庭教師

自立支援から学習支援の架け橋

自立支援

- りたりこ LITALICO ジュニア
- 運動療育
- 放デイ

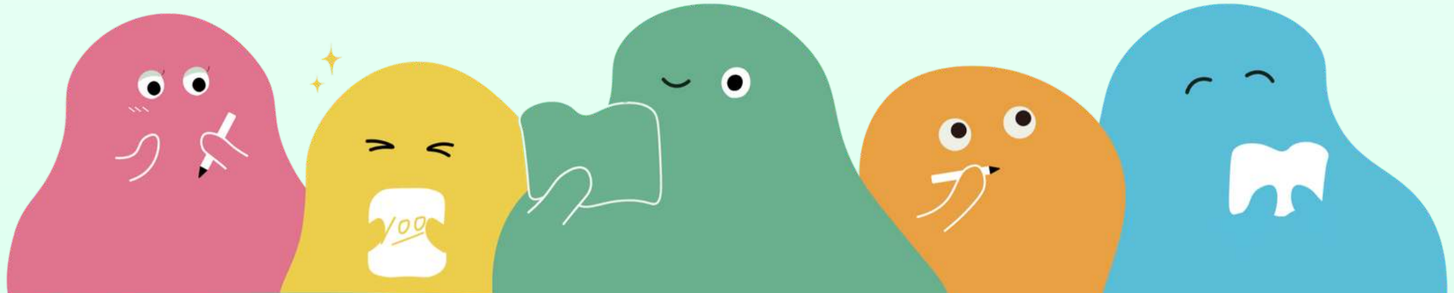
心の理解も、進学も。

MICHIBIKIゼミ

ラーニングデザイン学習塾

「学び方」を「学ぶ」、新しい塾のかたち。

（主には普通級と特別支援教室を併用しているグレーゾーンの児童生徒を対象としています。）



対象：小中高生

心の理解も、進学も。
MICHIBIKI

ゼミ

無理して学校に行かせたくない。
将来の選択肢をまもってあげたい。
どちらも、おなじくらい大事だと思うから。

Michibikiゼミは、自立支援と進学支援の
ハイブリット型学習塾。
特性を持つ子どもたちのことを深く理解し、
ペースも、教材も、学ぶ順序も、
一人ひとりに合わせた学びを提供します。

授業についていけなくても、学校のルールが
まもれなくても、じぶんに合った学び方さえできれば、
勉強はできるようになる。可能性は広げられる。
わたしたちは、そう信じています。

学習ではなく“行動”や“過程”をみる「Michibikiゼミ」

実験

特性に合わせた学習環境設計
「ラーニングデザイン」


校舎で


家で


公園で







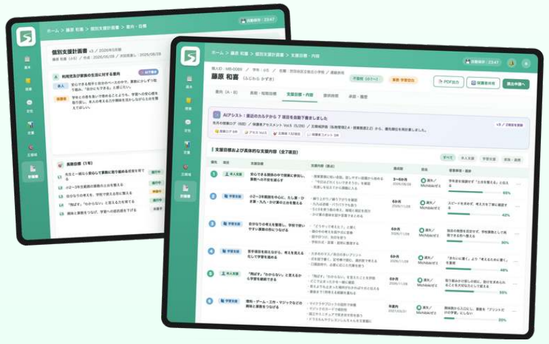
床の方がいいなら、机じゃなくてもOK。



耳栓をすれば集中できるか、、？

言語化

「トリセツ」作成
（Michibiki karute）



過去の支援記録や
検査結果

実験結果

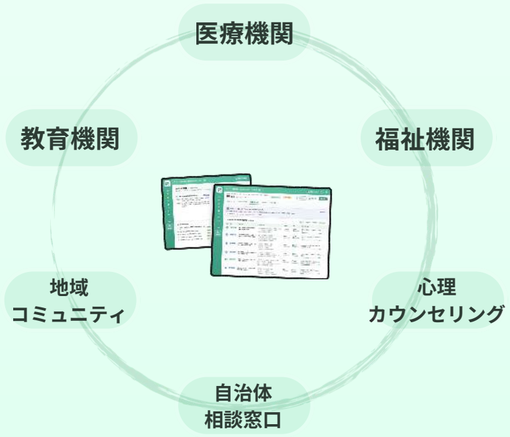
次の支援方法（実験内容）
の提示

連携

「福祉」と「教育」
をつなぐ

学習支援（教育）　大手塾　個別指導塾　家庭教師

自立支援（福祉）　LITALICO ジュニア　運動療育　放デイ



心の理解も、進学も。
MICHIBIKI

	他塾	**Michibikiゼミ**
基本的な考え方	勉強量を増やして点数を上げる	**特性に合う方法**で点数を上げる
成績不振の捉え方	努力・理解不足	**やり方・環境**のミスマッチ
指導の中心	指導	**分析・設計・伴走**
勉強量への捉え方	まず量を増やす	量の前に**質**を整える
成果への定義	テストの点数	点数＋**自分で学ぶ力**
目指す成果	受験の合格	**自学自習**が回る状態
向いている家族	試験や成績の短期成果重視	就学・進学・就労まで見据える **長期**支援重視

トラクション（自治体・企業連携）

TERAKOYA

Leave a Nest
The Knowledge Manufacturing Company

Hakuhodo　TORAY

世田谷区
SETAGAYA CITY

プログラム企画



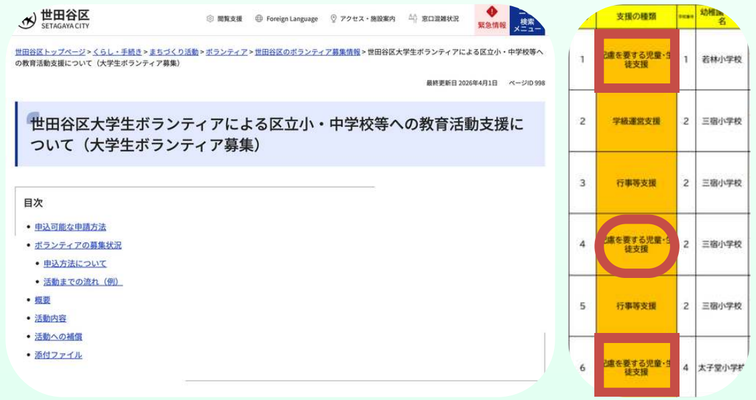
グレーゾーンの子どもたちの
特性に合わせた
探求プログラムの企画・運営

研修



自然体験活動のスタッフ研修
（グレーゾーン児童生徒へ
の関わり方講習）

講師派遣



配慮を必要とする児童生徒
へのサポートスタッフ派遣

トラクション（自治体・企業連携）

別府市

プログラム監修

全公立幼稚園対象
気づきノート作成



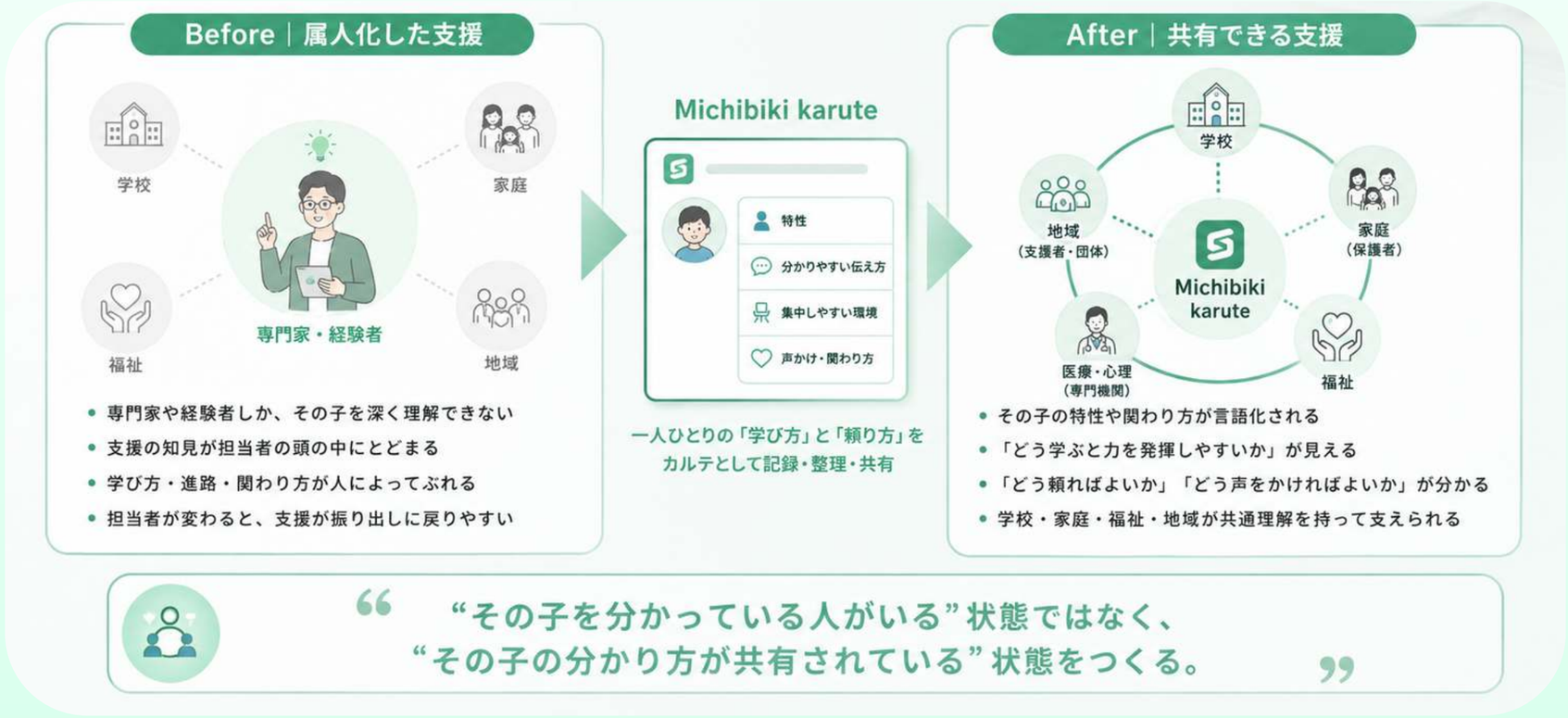


https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000084.000047217.html

自治体様へのご提案

一人ひとりの「学び方」と「頼り方」を、地域で共有できる形に。

特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対して、①本人を知る → ②合う方法を試す → ③「トリセツ」にする →
④必要な支援につなぐ**「こども版地域包括ケアシステムモデル」**をご提案します。専門家や一部の経験者に依存していた支援
を、Michibiki karuteによって、学校・家庭・福祉・地域が共有できるエコシステムを構築します。



「Michibikiカルテ」の画面（参考）



※こちらは現在Michibikiゼミで使用している画面になります。自治体のご要望に応じて取り込む情報を差し替えたり、管理権限を調整することが可能です。

インパクトモデル (Theory of Change)

Hazamaが直接責任を持つ範囲（アトリビューション）

Hazamaが貢献する範囲（コントリビューション）

Issue / 課題	Cause / 原因	Intervention / 介入	Output / 結果	直接アウトカム（短期） 自己理解度・意思決定の納得度	中間アウトカム（中期） 進学満足度・登校継続率 就職満足度・1年目定着率	最終アウトカム（長期） ※Well-being	Impact / つくりたい社会
発達障害グレーゾーン児童生徒の学習環境不足とそれに伴う自立困難 通常学級の小中学生の8.8%（全国70万人超）に発達障害の可能性	「選ぶ前」の困難性 子どもの特性に合う教育機関・教材・進路の情報に出会いづらく、何を選べば良いか判断しにくい	Michibikiメディア 本人と似た特性を持つ先輩の学び方・進路・失敗／成功事例に出会える	① メディア掲載事例数 ② 閲覧数	自分に合った教育機関・教材・進路の選択肢が見え、納得して意思決定できる	自分に合った進学先・就職先・配属先の選択肢が見え。納得して意思決定できる	「経済的自立」 就労の継続 衣食住の安定	Vision 「尊厳」×「可能性」 一人ひとりが持つ固有の「色」を見つけ、その色が最も美しく輝く環境や関わり方を考え続ける社会に
	「選んだ後」の困難性 選んだ環境の中でどう学び・頼り・適応していくかを言語化・実践する伴走が不足している	Michibikiゼミ 実験（ラーニングデザイン）× 言語化（トリセツ）で“学び方”を“学ぶ”	① 学習特性アセスメント実施数 ② トリセツ（指導計画書）作成数 ③ 通塾継続年数	学習特性の把握を通じた「自己理解」 自己理解を通じた他者への「自己共有」 状況に応じて自分を守る「自己防衛」	学校生活・仕事を楽しむ工夫ができる 進学先・就職先に特性を理解されている 声を上げる・休む・辞める決断ができる	「手続的自立」 家計管理 税金等手続きの自立 「精神的自立」 居場所の確立 自己決定感・自己効力感 やりがい・承認	
根本要因 学習支援（教育）と自立支援（福祉）の二極化により、情報が蓄積されずブラックボックス化		連携 塾を入口に医療・福祉・心理・学校へ“支援感のない支援”で橋渡し	① 学校・放デイ・心理士・相談窓口・医療機関とのトリセツ共有件数 ② 新たな機関への接続件数	保護者 進路・相談先を協働で考えられる（自責の軽減）	保護者 子の特性を把握でき、学校・職場とのコミュニケーションコストが軽減される	保護者 子どもの心配や不安が軽減し、自分の第二の人生を歩むことができる	こどもの地域包括ケア 学校・家庭・福祉・医療が「トリセツ」を共通言語に子どもを支える仕組みを全国に

長期成長戦略

全体のHR市場（採用）

発達障がいグレーゾーン転職サービスの展開（HR領域）

発達障がいグレーゾーン就活サービスの展開（HR領域）

法定雇用率を下回る企業への研修サービスの展開

toB（学習塾） toG（自治体・学校）の開拓

指導法・居場所・進路・教材・問題改編pilot

β版リリース&改良(学術研究・UX/UIの質)

MVP開発

「学び方」から「働き方」へ

発達障害の可能性がある小中学生は全国で約80万人いると言われていますが、発達特性を持つ人は勿論子どもだけではありません。発達特性との関連の強い境界知能の人々は全国の1700万人（7人に1人）と言われています。**「学び方」に苦しんでいる子どもたちに加えて、大人は「働き方」に苦しんでいます。**自分に適応する職場はどこなのか常に模索している人もいれば、発達特性を持つ部下をどのようにマネジメントすればいいか悩んでいる部長側もいます。Hazamaは教育市場を基盤としつつも、一人ひとりの特性に合った職場へのマッチングや入社した職場での働き方の構築等のHR市場にも寄与できるよう事業拡大を目指します。

採択・支援歴

①経済産業省・日本貿易振興機構（JETRO／ジェトロ）共催 J-StarX「ゼロイチ」2期

②東京都主催スタジオプログラム「TOKYO Co-cial IMPACT」2期

③ANRI主催起業支援プログラム「STARTLINE」1期

④taliki×京都リサーチパーク主催の起業家支援プログラム「COM-PJ」6期

⑤日本経済新聞社主催「NIKKEI THE PITCH SOCIALBUSINESS SCHOOL」2期

⑥ANOBAKA主催「ANOBAKA U-25 AI Accelerator」

⑦ETIC主催「MAKERS UNIVERSITY」11期

⑧東京都・東京理科大学アクセラレーションプログラム「TUSIDE EAP」

⑨公共事業実践伴走プログラム「TOKYO ↔ TOHOKU Social Innovation Bridge 」

⑩ETIC主催「社会起業塾イニシアティブ」

HP・SNS・プロフィール

代表 遠矢

Hazama



心の理解も、進学も。

MICHIBIKI